



畧譜

十五

伊奈	一場	今福	井
徳子	市橋	生回	行
徳洞	今門	福田	谷
入江	岩室	橋守	
象本	岩堀	磯野	

二百十一冊

現存十五

内閣文庫
三六二
架冊號類
九

内閣文庫
番號和 36088
冊數 211 (14)
函號 156 17

伊奈

畧譜

十四

伊奈	一場	今福	井有
猪子	市橋	生回	竹谷
猪洞	今門	稻田	
入江	岩室	橋守	
象本	岩堀	磯野	

二百十一册

現存五

共六

庫	文	閣	内
二	三	三	二
五	六	六	二
冊	冊	冊	冊
函	冊	冊	冊
四	二	一	一

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (14)
函號	156 17



東照宮より忠の一字と物たるを改  
 東照宮より忠の一字と物たるを改  
 東照宮より忠の一字と物たるを改

東照宮より忠の一字と物たるを改  
 東照宮より忠の一字と物たるを改  
 東照宮より忠の一字と物たるを改

貞政

母 貞氏 伊奈忠書

永禄四年四月十九日古良丸を討つ  
 又公敵の討つに古良丸を討つ  
 古良丸を討つ

昭忠

母 貞氏 伊奈忠書

永禄九年十月二日義昭が軍を率  
 清の守合戦の時侍従も率軍  
 切の依りて侍従も率軍  
 二日敵新田千席と戦て澤川列院  
 城を攻め討つに依りて率軍

昭應

母 貞氏 伊奈忠書

昭綱 忠書

昭忠の母 貞氏 伊奈忠書  
 昭應の母 貞氏 伊奈忠書  
 昭綱の母 貞氏 伊奈忠書



多岐の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは

其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは

其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは  
其の地を治るは

井伊玄祐が捕殺公の首を獲る  
清津を以て平塚因幡と備前中  
納言と合戦清津地方負色と行り大  
台刑部少輔人殺る平藤斗あく  
忠告を天の陣に彼の時 天延成  
と建てるより後ら下り成せ  
らり討て近着加助近討に起るり討  
西の如例より平藤斗殺るるに敵  
久保清孫を備前近着加助殺るるに陰

と公と之いひし陣に合戦又台師伊奈  
是書ある年者之備前之人と防戦  
備前中納言の之と加助陰と合戦年  
者多備前打死を既し已に利合戦  
山勝利討て野上の陣 峯系四林  
の前より移るに備前あり古ありる  
陣前の河野平年の時中務大輔  
加藤良馬即ち人古例やうく長濱  
山陣を移るに美奈山陣場は備前中

納言福清左衛門尉徳永法重は後  
の依和山城の備位に補敗軍の人  
殺し退きしやれは乃と云ふ切下し作  
之志を悉く後堂法重と并伊之助  
如補古田多助に人魔針許りたり  
左衛門尉徳永法重は後  
法重は押せしむる末別山を陣陣場  
なりしを今和又合師は悉く書加  
後之は是の附近を惣に是の尉は

保ありし也其夫におも申替補の中  
とありしなり徳永法重は中福清左衛  
門尉とありしは徳永法重は後  
陣場とありしは徳永法重は後  
法重は押せしむる末別山を陣陣場  
なりしを今和又合師は悉く書加  
後之は是の附近を惣に是の尉は  
保ありし也其夫におも申替補の中  
とありしなり徳永法重は中福清左衛  
門尉とありしは徳永法重は後  
陣場とありしは徳永法重は後  
法重は押せしむる末別山を陣陣場  
なりしを今和又合師は悉く書加  
後之は是の附近を惣に是の尉は





一、向宗の討つる所、向宗は、  
に、向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

永徳六年七月廿二日、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

女子

仁木助左衛門  
後家えむ水鏡と称

ふつ葉山版図の討つる所、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

如左、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

入水

貞心

貞心、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

一向宗紀之撰の別抄、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

貞心

貞心、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、

永徳十年六月十日、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、  
向宗は、向宗は、向宗は、







後醍醐天皇御代に於て御成敗の旨を御奉行に  
左方より勅を賜て改被の御代に於て御奉行  
に御奉行の旨を御奉行に御奉行の旨を御奉行  
の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
城山はくちの御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
伊奈市に於て御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
野中一平御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
く山門を改被る御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
叶の御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行

東照宮御代に於て御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
改の御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行  
御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行の旨を御奉行

と諸陣時。

東照宮より中根平左衛門尉に付本庄之諸村  
度々〜と諸陣〜と退〜と〜と再〜と  
度々〜と諸陣〜と退〜と〜と再〜と  
引退〜と敵攻〜と〜と諸陣〜と退〜と  
二月十日自志別虹塚の夜軍あり河内  
諸村より東田後在る村村と在る村中  
根平左衛門尉伊奈右衛門尉は徳義  
日合之節善兵衛在る村を指し其

平定七〜と物。今今夜の身候は虹塚を  
守るに又城之村は宗日向と付たれ  
二川二河遣ひ〜と〜と〜と  
物送す物又東之河の先今日牧野も  
尉あり七左衛門尉由合在る村も在る  
在る村伊東次郎在る村菅原新節  
其目亦多信尉保樂市在る村近後也  
在る尉本保信在る村鈴木勘河内井  
在る尉あり七左衛門尉夜の身候上り

の物家九丁と物流子又志別の上東見  
源太郎加賀凡早と物江宮山三郎久野  
若助天野と平本多能丸忠尉浮後  
次郎と尉浮東江物太郎又三郎指中  
市在忠尉浮東忠と信尉少と平と今  
二月十一の月忠と東田村と申根又  
知は系日向とと九尉家光中心勅解  
由と信系忠能丸日市と信と人少  
打丸多と良園の城と十七日と事あり

享和元年六月廿日江別婦川  
山全銭の時信系忠書昭應徳と合市忠  
尉丸脇陰底二と負一と信とと日  
廿日天懐の玉系坂とと死は合銭能  
能とと名と天正二年七月廿一日と別一  
宗之族の時

東照宮と忠信と信と○日と年と月と日  
長條と合銭とと陰と公の時と信と尉  
忠と信と信と尉と新陰と合





く首をなするに能く蒙りて好果あり

しり婦子然花の庭よりくくははし

空雲射と改慶享二年四月日

死半歳式別是之部法集勝教寺

遊

忠次 母八重氏 伊奈備前守 徳茂

天正七年 信濃若木四生之善之権父  
在場あり〇月十年〇月〇日

重信清

家牧 乃成二色 秘林舟

家傳元ハ並九曜ハ  
用ふた次ハ付巴ハ  
あつたし

前清のゆらげの色と  
云の因故なりし  
存藩小山島をゆ  
付しそとのとね城  
合戦なりしとて一更  
又不奇一むた次侍  
記ハ可の能文ハ一  
くくくく天正五年  
ナリし小山島の幕布  
たよりあやあつた  
上意ありしとて  
此とつへしとて  
根本小山を付丸し

東照宮城の改陣の時小栗大六宗を教信也

之列ありし大六宗は威の月十日年十

月秀吉之法を退治の由あり

東照文治府に移此の地は東照宮の御所なり日蓮聖の象

人理府は楊村此の地は東照宮の御所なりに用ふ

成りし時大六保法を為村小栗大六

東照宮を之に建府を急著小山島

入所とゆふ所の不日女と命付同女首

建府に由りし時小栗大六の担子英

云々のつらき  
くしんや平の  
上なきとて  
いんや彼の  
代々の故と  
いふと  
つらき

の若紋西の幕の  
東畑の上の  
東畑の作  
蘇の位  
徳の自  
足  
お  
浦  
並九

一  
東畑  
作  
蘇  
徳  
足  
お  
浦  
並九



と海に水没の禍ありん若し人の溺死  
 のに流るゝと救者人々下りては救  
 済さるゝ味方の弱さゆゑの及理せん況  
 致期いさゝかあるに普討出ると停  
 去年と休ありて口を養ふ所とす大 敵の  
 武威とる閣東を征らんとす戦日の生来  
 是勝敗は拘りんや秀吉と其言を  
 識るべし

東照公の名字を多くははめりとの仰あり

十月三日の御史に  
 三つと

右田原より百回遠るゝ後雨晴風靜  
 大軍を發歸りて舟楫も又成りて  
 大堰富士川海とを隔て法軍と自の  
 体とゆく皆絶え感す是年小田原を圍城 徳川家康  
 持城重臣のあかきと糧を便さるゝ秀吉  
 三月十日移兵之日年七月以迄平治の  
 時是年小田原を圍城 徳川家康  
 東照公の御史に  
 の時絶え不有是年小田原を圍城 徳川家康







元和五年八月十一日足徳院九歳小  
 く病死依知收公四願内武列中室  
 以一名言千百半石五拾六升六合  
 力道家石五拾六升六合  
 九月廿一日死之拾六升六合武列中室賜給  
 葬

宗英

修系十九歳

徳院

忠者  
 忠者  
 忠者  
 忠者

元禄六年六月廿一日  
 大歌院殿之侍所  
 三年三月十日  
 十月十九日  
 宗英  
 宗英  
 宗英  
 宗英

昔の忠室六年病死の自室之六年七月  
 十八日死に依知收公四願内武列中室賜給  
 葬

貞長

修系廿七歳

徳院

貞長  
 貞長  
 貞長  
 貞長  
 貞長

女子 海防屋原の物成の妻



女子名... 女子

忠義

母... 忠女

伊予守... 忠女

元禄九年十二月... 忠女

三月廿八日... 忠女

月十八日... 忠女

六月... 忠女

元禄九年... 忠女

元禄九年... 忠女

日守... 忠女

妻... 忠女

忠豊

母... 忠女

日馬

日守... 忠女

忠賢

元文二年... 忠女

月廿八日... 忠女

元文二年... 忠女

元文二年... 忠女

元文二年... 忠女

元文二年... 忠女

利隆の寛政六年九月廿九日死八半集  
 因守の葬

忠賢

伊奈徳茂

五郎助

某子馬 宝曆七年八月九日亡女子の同十三年

女子 十二月廿六日家持の同十四年八月廿日

女子 同日死七十三歳因守の葬

女子 同日死七十三歳因守の葬

女子 同日死七十三歳因守の葬

忠學

伊奈知助

女子 明和七年九月廿一日亡女子の安永三年

女子 十月十日亡初見の寛政六年二月九日

女子 死之柱六本因守の葬

忠實

伊奈徳茂

五郎助

女子 同日死七十三歳因守の葬

女子 同日死七十三歳因守の葬

八月廿三日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日  
八月廿九日

某  
少  
子

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

源姓

家致在巴 飯梅柳  
馬千石

伊奈

伊奈海部忠次二男

忠治

伊奈半十郎

東照宮代新親正格也代官兄統後

○八月廿三日  
勅宣  
九年十月廿三日  
甲府  
八月十六日  
後代官  
善悪  
川  
少

忠政元和十年二月十日病歿  
關東涉郡代關八州及後遠冬  
貢税



忠常

伊奈忠常十郎

女子  
正徳天皇

寛文己巳年十二月十一日家督父時

月々國東郡代○同六年為陸國

谷東國領出常侍兼大納言

貞治元年命下りる同月廿八日布衣の同

七末年二月二日為陸國谷東古川兼

弟切不也常侍兼領○正室八申年

正月四日死し二年三歳源長子産る

妻ハ杉平備前守西信の養女

△二月廿日...  
陸國谷東古川之連  
正徳天皇  
貞治元年命下りる  
同月廿八日布衣の同  
七末年二月二日為陸國  
谷東國領出常侍兼大納言  
貞治元年命下りる同月  
廿八日布衣の同  
正月四日死し二年三歳  
源長子産る

忠篤

伊奈忠篤十郎

年人

母ハ正信の養女

正室七末年二月九日初見○同八申年

九月七日那代父時職内○天和三年

年正月十七日足出法事出用掛

貞享三年正月七日足出法事出用掛

○貞享三年十二月廿八日布衣○同

三寶年二月七日悉領跡願領論出

分出被令二枚時後三羽織○同又元年

忠篤  
正徳天皇  
貞治元年命下りる  
同月廿八日布衣の同  
七末年二月二日為陸國  
谷東國領出常侍兼大納言  
貞治元年命下りる同月  
廿八日布衣の同  
正月四日死し二年三歳  
源長子産る

七月八日高院殿二年三回出急水法事  
 津用〇元禄十五年十月十九日死と平  
 九景日方不承る  
法名免心  
 妻八幡浦御中より由松之女

忠順

伊奈幸左衛門 幸五郎 稻葉彦郎

元禄三年八月八日書院番稻葉  
 市右衛門正篤養子少成之稻葉彦左郎  
 〇同六箇年十二月九日書院番

〇同十五年二月十五日相〜る少左

同年七月廿六日小納戸若八郎之次

同年十二月十日実足若十郎若篤の

家と成りて 國東郡代 稻葉家代

或は嫡男稻葉八郎有

十二辰年十一月二日深川築地少左衛門

出用 讓少左令三叔時後三〇宝永元年

利根川荒川出用 築地少左衛門

〇同六廿年四月廿五日相列川船身

元禄十五年三月五日深川大儀の  
 坊野院一柳月五日六月五日深川  
 築地少左衛門八月五日築地少左衛門  
 出用少左衛門時後三〇同十五年十月  
 十日深川築地少左衛門三〇同十五年  
 十月十日深川築地少左衛門

〇同七年七月廿八日  
 深川大儀の  
 坊野院一柳月五日六月五日深川  
 築地少左衛門八月五日築地少左衛門  
 出用少左衛門時後三〇同十五年十月  
 十日深川築地少左衛門三〇同十五年  
 十月十日深川築地少左衛門







元禄二年三月...

妻之在存母三位院品之女

忠辰

任宗平太郎

造酒物生

女子...

寛延三年七月晦日...

同中郡

女子...

代。同年十二月十八日...

女子...

成年九月又日...

女子...

月十八日...

妻引

忠

任宗海前守 半成 半在

女子...

寶曆己戌年九月又日...

女子...

辨代。同年十二月十八日...

女子...

牛年六月六日...

女子...

同十二月廿八日...

女子...

通第。同十四日...

女子...

迎江新田...

女子...

月板重八...

出用。○同年六月廿七日某酉年日之

於此法令之官道中出領御用

○明和二年二月十日由勅定在江

○同年同月十八日由坂渡出用。○同年十二

月十八日叙爵。○同和三年十二月十日濃

州勢少川之由重信出用同女子年七月

朔日齋堂村後口。○同和五年同月廿一日

日之由社之系出用。○同年十二月七日叙

仕。○安永元辰年八月廿八日死。○同平

○明和二年十二月廿五日  
朝鮮往乃人妻  
女子年七十七  
○同和三年正月廿五日

日某同寺ノ家ノ  
妻

女子 二其心志辰子忠敬  
に於てわがまを  
女子 忠敬を  
女子 忠敬を

忠敬

二其年申女子右里山男母八某氏

任尔在在 彈心

明和六年十一月又日養子。○同年十二

月七日家督関东郡代。○同月十八日布

衣。○同月廿九日表父侍前子勤致乃月

将人参製法出用初。○同和七年八月十三日某辰

三之由入。○同和七年八月十三日某辰







源姓 伊奈 五百石

伊奈侍前忠次六男母八重氏

忠吉 伊奈 六左衛門 牛之助

慶長十四年... 新親六百石 書院番

慶安元年十二月十七日死 江戶御門

正源寺... 妻六加... 年五十九







忠寄 授中序  
是忠寄  
忠寄  
忠寄

三月十一日西丸山納戸。安永八年四月  
十六日元方山納戸。同年十一月廿二日死  
源川正源守其女  
妻ハ松尾九十九郎房年子

忠寄

美成(三男) 伊奈松八郎 傳六郎

女子 安永六年七月宵養子。同七年  
七月十九日大由番原山百俵。同八年  
十二月廿六日赤松。同寛政三年三條

五番之市山流寺坊後之人勤  
男於山寺翌年七月六日度之浪  
乃故。同八年三月十日次上人の時故  
武。同十年七月二日大由番原

忠式 職之助 早也

忠明

寛政九年正月十六日養子。同年  
二月十二日初人時了  
妻ハ松尾長左衛門房昌子

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*



源姓

伊奈

是初大國利信成信十代伊奈備前守

志次治守伊奈平部右衛門守

伊奈右衛門

志次

母

妻

*[Small handwritten notes and characters, including '伊奈右衛門' and '康久女'.]*

教有院孫御代正保二乙酉年十一月廿九日知之九  
 甲辰年 乙未年切末之百依宗。乙未年二月  
 年九月廿七日入聖書院。乙未年二月  
 十一月廿七日入聖書院。乙未年二月  
 乙未年二月廿七日入聖書院。乙未年二月  
 乙未年二月廿七日入聖書院。乙未年二月  
 乙未年二月廿七日入聖書院。乙未年二月

忠則

伊尔年十節

母 采田院後与麻人女

妻 乙未年忠則院定宗女

妻 酒井氏女

教有院孫御代正保二乙酉年七月十日百依宗

曾孫。同日為長年。乙酉年八月廿七日入聖書院。

常書院孫御代天知乙未年十二月十日病死

小菅氏。元禄十一年己未七月有隱居。享  
保十二年未年十一月廿九日病死。歿之知葬地。同  
前

忠長

伊尔希氏

忠長

伊尔希氏  
伊尔希氏

春海 酒井氏系女

実母 系女

妻 平尾氏系女

乃靈院疎神代年月。不知其子。元禄十一年己  
未七月有隱居。享保十二年未年十一月廿九日病死。歿之知葬地。同  
前。元禄十一年己未年九月十日病死。歿之知葬地。同  
前。

和

忠盛

伊奈集人

之及遊也

忠正

左衛門平忠氏女

實母右衛門向井平七郎末女

實母右衛門伊奈集人之母

實母右衛門伊奈集人之母

文照後醍醐天皇御代奉内分知事女子。宝永六己丑年  
正月有旨召格小吉信。享保九己辰年七月  
有旨召入皇宮後女。同十九己寅年二月有旨  
病免小吉信。元文元有辰年十二月有旨  
病免延之。享平正己辰年有旨病免延之。如蘇  
地同有

志衡

實伊多身人慈聖男  
伊尔么麻

去蘇沈原九節去節友延女

妻 孫

妻 去文石心女

妻 照於之身貝殿女

有德院保和代宣保十六年十一月廿七

○元文智在年十一月廿七日  
十一月廿七日  
入御元書院後女○應享二年九月廿日  
古方以陳河九遊 以移沈月也

有德院保和○同年十一月廿七日  
○同二年十一月廿七日  
有德院保和  
九年病死年數不知葬地同外

女子

女子名湯妻

名信

信伊奈子孫乃名信曾

信乃

信乃腹於公室乃殿女

信乃女

信

信乃九弟乃信乃女

有德院棟御代定延元中辰年七月有<sup>信乃</sup>信乃小

信乃信乃。實延元中辰年閏十月九日有<sup>信乃</sup>信乃

信乃信乃。同月十日有<sup>信乃</sup>信乃。信乃。實曆十

信乃辰年閏月十日

信乃信乃。信乃信乃。信乃信乃。

信乃信乃。信乃信乃。信乃信乃。

信乃信乃。信乃信乃。信乃信乃。

洗若准令通。同十二年十一月十日  
 及在河城河渡津利。同年十二月十日  
 若君原出附。同十二年十一月十日  
 洋領也。同年六月十日。佛府。御自是。上  
 後  
 孝若准保業而後同。八日。素奉。同月十日。官初在  
 言後若准令通。二日。若元。同年十一月十日  
 十日

若君原出附。同十二年十一月十日  
 若君原出附。同十二年十一月十日  
 若君原出附。同十二年十一月十日

如子  
 伊原  
 伊原

忠利  
 伊原  
 伊原

伊原  
 伊原  
 伊原



妻 源光九郎重房五将女

清原院保元代天曆二十五年十月有御書  
清○同本十月廿二日有御書○實政之御  
年一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
月一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御

○同本二十五年二月九日有御書○  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御  
奉一印家伊奈右近將監經年一奉政之御



新親子原下河家お後山書信又河原  
河原太道お後山書信又河原  
河原太道お後山書信又河原  
河原太道お後山書信又河原

惟忠

河原太道

母 河原太道お後山書信又河原

書之載

河原太道お後山書信又河原

寛政六年七月十日家書山書信。

同年十月十日家書山書信。

河原太道

如子文

未修





忠易十六

伊奈之長

母 初 永末甚た為り妻  
妻 初 中根日向子其妻  
後妻 水 池上十所長其妻

寛久又天乙巳年八月日家初婚○年月

文河伊奈之長

不知越後國中代友○元禄十丁丑年十月

廿九日山初定歸山舟、家初上を治○日

十二巳卯年正月廿六日於死市初死年七十

之代妙二出寺、桑

忠性子年

伊奈之長

初妻十之長

年月日不知初規四之代有山石上  
系初有之山

康信

初年初之長

初年長書其長子

女子一人

印  
因有令在室其妻  
本下左門利值妻  
印  
中次在室其妻

忠知

上  
伊奈之孫

母妻不知

父在病之時始教。之孫十三年其母死

忠房

伊奈之孫

右門外

忠朝

中川舍人

右門外之後所免毛利右衛門守中川

首左衛門其妻

忠宗

池之忠房

右門外之後所免忠宗并流傳其子其妻  
母方苗子其妻

某

么松其子

右門外之後所免其妻右門外其子其妻  
其妻在室其妻







忠類

高橋宗右衛門忠房 忠房 忠房 忠房

忠類 三々

實母 三々

妻 正徳四年九月廿五日 忠房 忠房 忠房

正徳六年乙未年正月日 忠房 忠房 忠房

二正徳年十二月廿六日 忠房 忠房 忠房

○正徳八年戊寅年十二月廿七日 忠房 忠房 忠房

○正徳九年己卯年十二月廿七日 忠房 忠房 忠房

忠類

友三郎

忠類

伊宗友三郎

母 忠房 忠房 忠房

妻 三々

正徳九年己卯年十二月廿七日 忠房 忠房 忠房

同年正月十六日 初七日 忠房 忠房 忠房

八月廿六日... 二十歳日等

忠留

小菅作 実加友十美頼忠三男

伊予友之助 初十二席 在在助

市原友之 再在助

初忠新

菅母之

美母家女

妻 有作友之親信女

後妻

奥醫所

井上良泉法服玄為女

齊實麻平 唐衣年十二月廿六日春女子

同十一 辛卯年正月三日如常小菅後

○同年六月晦日申友入也書院友

同年九月朔日強府三友友四暇之友

初の四月見。同中甲申年二月廿六日

皆之友わく大的 上更の如和二年

三月廿六日 同八年卯年十月

十三日本下川筋法儀之儀法儀行  
 村向有之同月十八日樂福時夜之。  
 安永元年九月十日市部書儀令  
 之改  
 二月十六日以上大の上覽之天徳三郎  
 十月四日の時之書儀改以子年十二月十日  
 花園五方石出友之同年字り  
 園東新次郎四郎俊成の子(持持)園東

卯年二月十日小令東山麻持之市部  
 お勤同月十日之儀更儀中夜。同  
 九月年十二月十日お勤お勤以上有初夜

東

伊宗 育之部

甲世

忠

貞

春母 大所お勤大書の親母  
 實母 大所お勤大書の親母  
 大所お勤大書の親母

妻 孝文忠室女

天保八年十月廿日 舞臺子の孝文政  
二年正月廿日 藤瀬の忠室女 忠室  
の同日子年 正月廿日 舞臺子の忠  
初之の同日子年 正月廿日 舞臺子の  
河原山屋の忠室女 同日子年 舞臺子の  
の同日子年 正月廿日 舞臺子の忠室女  
地同日子

孝子忠貞妻

女子二人

忠貞  
孝子忠貞妻

忠時

伊奈重之助

忠時

寛政七年正月九日 舞臺子の忠室女

忠貞

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

藤原姓

初孫姓

楮子

兵庫政親政嫡男源仲綱末流楮乃生田

正六位生田源入某 南朝小は正後のみあり  
玄楮の表化名と楮ふ

そ堂とくく菊一文字のりし後依く苗字と  
楮子とありそ堂と森山と一文字と子孫

代々実名 後裔楮子入在(内)尉一忠乃嫡男

楮子内(内) 三在(内) 内(内) 活(内)

一時

織田信長小江若母衣と先許後豊臣衣  
小江若母衣と云々。天正文祿の間未だ  
の別物敷通と云々。○後

東照文正公の札。天長六年九月関ヶ原に  
御陣ふ後ひやま戦切利りて愛と云々  
茶入常陸と云々。老年の後

台徳院及清心のおふ加へらる。寛永二年  
二月廿八日死年八十一馬入係天徳寺中一茶

立院小葬

栲子無物

一俊

織田信長おは天正十年六月二日二條御所  
にて討死京鞠のりて海公と小葬

栲子久た米門

正次

台徳院殿

大徳院及清友代清書院也。後承絶  
信 辛未共内色 越前守小江

一日

徳子治左兵衛 右衛門

大徳院及清友代清書院也。後承絶  
地ノ判物と後。その後加賀大納言利家小江  
承永六年七月十三日利家より常地の判物  
と後。後

台徳院及清友代清書院也。元永六年十月

十日死留谷抄昌与と葬

一威

徳子三尾藩

父の系色し月二日名知

台徳院及

大徳院及友代山侍くまより清書院也

時徳

徳子の弟八

大徳院及の清代父の遺族と後くまより清書院也



兼此二百名と加給りて六百名となす。○後病  
ありし時身友と脚一多と養しんしを  
あひしりしともあふれす嗣なまは  
が絶

一忠

松子権内 石生門

一弘

松子権内門

一義

松子道圓と也

長三郎

松子求子一長養子と云ふ

一時

松子大右衛門

玄亮

一寛

松子玄亮

早世し絶

利

寛永六年七月  
惣子治左衛門

之和年中祖文一時の遠慮と給御書院有。  
寛永六年七月病重なり申れ八才左衛門一吉  
と養ふんととあひしりし。此時養子と  
停禁とす。此の病重なりしに同月六日死  
同古小葬

惣子左衛門

明

初一吉

寛永二年次男として初見。同は年次より  
出りし。康永二百年依と給ひし小姓組。同十  
年二月加秩二百石令く六百石常陸の國の  
内々給。正保二年六月廿八日此迄。  
同年布衣。交安。同年十一月廿一日加秩二  
百石。○万治元年六月朔日駿府町奉行又  
二百石と加賜せらる。○寛文九年正月十日  
死年六十一同古小葬

興

孫子左史

教子

六九傳

初一伝

万治二年七月十日送教座位正史了ノノ康永二  
 百依と孫ノ小姓組ノ寛文九年七月秋傳ノ延  
 宝二年二月十六日屋鋪設ノ同六年二月六日  
 先ノ同六年七月十日大坂ノ同日代官令女校  
 上ノ同七年三月廿九改稱ノ天和二年十月三日橋  
 大坂九文河津善信奉行ノ同年十一月十日

湯浅合三校時服二羽織と袴ノ貞享元年十月  
 廿六日送大坂海府評謂為湯淺貞英合三校  
 三校時服二と袴ノ同年十二月廿七日改ノ時  
 廣合三校と袴ノ同二年二月六日相ノ方出書  
 同六月廿六日再小姓組ノ元禄六年八月晦日  
 相ノ間出書再同七年正月十日先手法袍取  
 同十年七月七日康永二百依と赤地心ノ  
 治ノ

或前中伝

康永二年十月十日

○宝永二年十一月十七日死年六

十六歳同古小葬

一朝

初一法

梶子尼門

天和三年九月廿六日御座位より右出り此  
書院あり。元禄十三年八月廿一日病免。宝永  
二年十二月廿六日家務父より乞と久也承地子  
百石の内才水子一石。二百石分初。同六年  
八月十六日死年四十九同古小葬

一總

初一法

実一與三男

梶子二十斎

己之助

流市郎

久山

宝永六年十月廿七日梶子家務。同六年  
正月二日初免。正徳元年正月二日御書院  
。延享二年六月廿二日乞免。慶安元年  
。同元年八月六日流居。宝暦元年六月廿七  
日死年七十九同古小葬

一 乘

初統

三尾出門 舟山

実徳聖平左衛門成徳六郎 松子左衛門 寛政 延享 天明 文政 天保 嘉永 安政 享和 元禄 享保 享和 寛政 延享 天明 文政 天保 嘉永 安政 享和 元禄 享保 享和

享保四年七月十日、養子。○延享四年八月  
六日、家傳。○寛延三年四月二日、清書院。○  
○宝曆九年十二月十五日、改養令。○明和  
八年二月二十七日、先立養令二枚。○同年八月  
八日、改任。○安永四年七月十一日、死。同葬。

一 南

松子左衛門

左助

左門

宝曆九年十月十六日、初見。○明和八年八月  
八日、家傳。○同年十二月廿七日、清書院。○寛  
政十年八月廿二日、死。年六十七。同葬。

一 信

松子数子

安永九年十二月廿七日、兄一甫。小養。○天明  
元年十月十六日、初見。○寛政七年三月八日  
小倉系、涉精。○時父小代りて供奉。○同年

七月廿四日死同古小葬

实一伝想从

猪子三十席

若之助

高八百石

一 道

寛政七年七月廿六日姊孫兼祖○同十年十月  
以之祖父之家持

友永新

猪子

猪子内出以一時兵代在又二再渡

承馬

初志助

一 女  
始二色又一信

元禄十二祀年二月廿七日  
及入海三 曾之合 海山氏

延代口名歌之。宝永二附年  
 十二月十日物之世文。子心之内  
 二百石。知。寶永九年十一月廿  
 早。後。若。口。若。入。享保七。是。年。寅  
 方。病。元。岡。十七。子。年。三。月。廿。日。病。死  
 年。二。百。石。口。名。龍。昌。寺

宝永八年十一月十九日  
 宝永八年十一月十九日

一書

宝永七年十二月十九日  
 享保七年十一月廿九日

宝永七年十一月十九日  
 享保七年十一月廿九日  
 宝永七年十一月十九日  
 享保七年十一月廿九日

宝永八年十一月十九日  
 享保七年十一月廿九日

一典

宝永二附年十一月廿九日  
 享保七年十一月廿九日  
 宝永二附年十一月廿九日  
 享保七年十一月廿九日

宝永二附年十一月廿九日  
 享保七年十一月廿九日

源入。因。七。年。一。月。七。日。病。死。五。十。九。歲。

祖父西... 實年人... 如...

如...

一作

宣和六年十一月廿九日病歿... 宣和七年...

宣和...



源姓

栢桐

宣和六年十一月廿九日病歿... 孫... 果...

宣和...

宣和...

宣和...



政復

松尾重光

天正丁酉庚午年一冬其後相与方石  
早自卒在。○同九年卯六月七日  
皆在石在。○同九年卯六月七日  
相与石在。○同九年卯六月七日  
其日死。○同九年卯六月七日  
身等

政德

松尾重光

天正長元酉甲一冬其後相与方石

山澤山信之後依之三年其。○竟永宅  
唐年五月二十日死。○同九年卯六月七日

正京

松尾重光

正和元乙戌初相与石在。○大西其。

竟永宅。唐年七月廿七日。○同九年卯六月七日

七德院相与石在。○同九年卯六月七日

二月廿七日。○同九年卯六月七日

相与石在。○同九年卯六月七日

徳元。高安之。子。二月。初。山。日。付。少  
 初。務。之。百。儀。同。年。十。月。二。方。上。方。也。國  
 皇。山。用。心。同。之。唐。美。六。月。皇。子。方。大。臣。臣  
 日。有。代。同。年。九。月。三。方。元。成。時。也。皇  
 三。甲。午。時。所。日。付。也。四。唐。二。丙。申。年  
 大。臣。日。付。也。五。方。治。元。成。同。之。同。三。正。元  
 十。月。九。方。日。付。也。同。之。唐。子。上。月。三。日。皇。子  
 依。命。攝。政。后。日。付。也。同。之。元。文。元。成。皇。子。上。月  
 同。之。元。文。元。成。皇。子。上。月。三。日。皇。子  
 同。之。元。文。元。成。皇。子。上。月。三。日。皇。子

同。之。七。月。丁。巳。方。死。皇。子。九。歲。年。也。大  
 統。帝

正。卷 五。五。五。五

正。保。三。之。百。初。在。行。不。正。也。皇。子。友。之。元  
 文。元。成。十。月。上。皇。日。力。皇。子。也。天。和。元。皇。子  
 正。月。二。日。皇。子。也。同。之。皇。子。皇。子。也。皇。子  
 九。方。西。元。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子  
 年。日。之。皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子  
 皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子。也。皇。子

上月十四日病死保善寺

心良 事九卷

寛文七年未初春行由名古山山莊。元禄  
七年戌三月一日父歿。是日言五百石

三月八日未初春。山莊。未之言。保善寺  
元禄七年三月一日父歿。是日言五百石

付之。如由事。元禄七年三月一日。父歿。是日言五百石。保善寺。元禄七年三月一日。父歿。是日言五百石。

心為 保善寺

心久 保善寺

元禄七年甲戌十二月一日父歿。是日言五百石  
元禄七年甲戌十二月一日父歿。是日言五百石  
元禄七年甲戌十二月一日父歿。是日言五百石  
元禄七年甲戌十二月一日父歿。是日言五百石  
元禄七年甲戌十二月一日父歿。是日言五百石

心忠

宣和六年己丑四月六日御成任分心忠  
○心徳元平卯五月七日御成任分心忠  
上院同方心忠元平全一校御成任心忠  
丁未同方心忠元平死日寺

心高

心高 卯九月 源右一家

西表 之表

宣和三年辛酉七月  
次男心高御成任分  
宣和三年九月

宣和三年丁未二月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

心長 孫助

宣和三年卯九月七日御成任分

宣和三年卯九月七日御成任分

西倫 三郎の 享和三年丙子子不形子之叔也

心通

徳政所 徳政所

美一 徳政所 徳政所

享和三年三月十日

八月十日 家信の 女永三 甲午

二月十日 西之 徳政所 同大 丙申 九月

亦有 病欠の 同九 庚子 四月 有 徳政所 寛政四年三月十日 出 庚午

心儀

初 庚午 助

高 三 百 儀

安永九年庚子年 四月十日 有 徳政所 小 徳政所 寛政四年三月十日 有 庚午 三月十日 有 庚午

源姓

精烟

安永九年庚子年 四月十日 有 徳政所 親王 徳政所 扶用 有 徳政所 徳政所

改尚

不 庚午 徳政所

安永九年庚子年 四月十日 有 徳政所 有 庚午 全

壬子十一月十日 同 庚午 有 庚午 七 未 三

月八日 有 庚午 有 庚午 有 庚午 二 未 成

二月廿九日死牛九保長寺

其 三所在處

延慶六年戊子年三月廿九日死牛九保長寺  
四月廿九日死牛九保長寺  
五月廿九日死牛九保長寺

其 香合所

年月日不知如後之福也

四月死之額如後

正長 香合所

其 美多寺香合所二男

香合所病死後法田河内寺  
其 身元之福也  
其 身元之福也  
其 身元之福也  
其 身元之福也  
其 身元之福也



明正年正月七日。佐野管左衛門一件。身小書院  
入彦部。同六月七日。西光。同八年六月十六日  
再大由也。

宝曆九年十月。吹上。西庭大。的。上。覽。時。腹。二  
洋領。明正六年十一月。朝日。同九年二月廿  
九日。同。上。同。年。正月。朝日。吹上。湯。庭。原。康。  
上。覽。棧。苗。白。綿。子。者。一。反。洋。領。○。安。永。二。年。  
十二月六日。西。高。西。師。湯。庭。原。康。由。供。引。後。漸。少。

鴨。射。苗。同。十。日。時。腹。三。洋。領。○。安。永。三。年。二。月。  
海。日。吹。上。湯。庭。原。康。射。上。覽。棧。苗。白。綿。子。者。  
羅。沙。者。一。反。○。同。年。七。月。廿。三。日。牛。湯。前。由。之。  
賭。子。川。後。上。覽。同。廿。六。日。合。二。枚。○。同。十。一。  
月。十。八。日。朝。拜。馬。場。一。統。騎。射。上。覽。翌。十。  
九。日。合。初。枚。○。同。正。年。十。月。鹿。毛。野。馬。洋。領。○。  
同。正。年。正。月。日。元。供。奉。時。合。三。十。反。洋。領。同。  
八年八月二日。牛。湯。前。由。之。由。之。上。覽。同。



六日  
城令二枚  
天竺二年九月  
十二日吹上清庭丸物  
上覽棧箇編子者一  
洋領。月也年二月吹上西庭大的  
上覽時版二。寬政二年三月廿三日吹上西庭  
丸物  
上覽曆年日白編子白編酒者一洋領  
○月也年八月九日淺景駒形雲下  
上覽同十一日令二枚  
月六年十月十九日  
吹上西庭笠子  
上覽棧箇沙羅沙蘭油

考一及洋領。月十年三月廿二日吹上西庭事的  
上覽羅岩板一百五五吳呂一及洋領

正高

古本所

寬政八年七月於初見



友系姓

入江

大織冠徳是十六代 遠江守高憲之後  
胤入江大守春備之孫

春澄

即右馬

秀長考形 仁之相之所 五月七日 大坂  
右討死 享年五十五



徳の同甲六 ありし廿七の少少人絶。  
正徳二年三月廿九日細戸の宮原正成  
十月廿九日死年一氣日守

倫敦

又八所

入江浦海軍兵隊三男  
正徳六年五月廿六日死年一氣日守  
正徳六年二月廿九日同之次郎の宮原正成  
成十一年七月廿九日死年一氣日守

中野丸田裏四門寺の次郎の宮原正成  
正徳六年七月廿九日死年一氣日守

傷

如左の如く 正徳年

享保元年八月廿九日初身正成  
正徳二年九月廿九日死年一氣日守

倫敦

又八所

享保二年八月廿九日初身正成  
正徳二年九月廿九日死年一氣日守



兼實

忠清

寛文三年

三月

三月二十一年文政院承例の事と云々

田の法友の良子

三月

以外に好む事なきは百歳同日午辰

世に

百歳の元禄同辛未乙卯年死日寺

改方

公儀

元禄乙卯未七に在り松田らに好む

日年三月

三月

以後同乙卯辰卯九月細大田の家永六

子不子百死日寺

兼後

公儀

元禄乙卯未七に在り松田らに好む

日年三月

三月

二枚の細大田の法友の良子

寛文元年

元禄乙卯未七に在り松田らに好む

戸部右の正徳子二乙卯未七に在り松田らに好む

兼尚

忠清

初乙卯未七

公儀

寛文三年九月十九日初  
正徳子二乙卯未七に在り松田らに好む



慶永院

泉中

泉中内宿意之後

幸忠

依在馬 初在年次又存馬

正徳又未十月四夜、出の京保十二未四夜

与死劫之。元文三年正月四劫之。

文享三正月四月四夜。元文三年正月四夜。

長徳院 母多病免。同六年正月四夜。

長徳院







一、後述の如く、  
明治七年七月五日  
...

明治七年七月五日  
...

明治七年七月五日  
...

明治七年七月五日  
...

明治七年七月五日  
...

此の指石は、新田地、  
...

改府後、  
...

その後、  
...

後、  
...

十分一、  
...

...

...

...

...

...

忠篤

心物 初 心物 元大所  
七年信子入桂所  
二、包百樓

安永七 戌 戌 十一月七日  
...

...

...

明治七年七月五日  
...



○享永三年十月九日  
中佐因村。○心徳に甲午十二月廿日

中畑之氏以初坊百俵。○享保三年甲戌

三月廿六日一回小普請。○日主甲戌齋

十月九日隱居。○同大印十月廿日死  
街裏祝云云々々

勝采 三光

実伴長三三丈次男

享保三年十月九日

享保三年甲戌十月九日死

己酉年十一月廿九日死

庚辰十一月十一日病歿。○同丁三亥未

乙酉六月隱居。○同和七唐寅七月廿日

死○

勝定 三光

齊曆十二月未二月六日在後小普

請。○安永元主辰十一月八日死○

○

勝茂 三光

高誠百俵





十月廿三日卯申九初宣政元年十一月十日  
着表附

天保五年平次致之書

一場夜急情

政成

天明二年十二月廿九日  
宣政元年十一月十日  
宣政元年十一月十日  
宣政元年十一月十日

夜原姓

市橋

徳是八代夜原姓考  
今夜原姓考  
夜原姓考

長若

三郎

初孫郎

始母方  
市橋  
宣政元年十一月十日  
宣政元年十一月十日  
宣政元年十一月十日  
宣政元年十一月十日





九月十日

大藏院振上御身人の寛永二二廿七有  
御来市別紙頂戴之御為元和  
八壬戌八月廿四書院後友。寛永九  
壬申八月十八日西使友。同友有  
大二百廿七後國府用上。西月付。同  
十卷方已月廿六日西月付。同友  
西加坊多水の寛永十又戊寅辰  
西加坊多水の寛永十又戊寅辰  
西加坊多水の寛永十又戊寅辰  
西加坊多水の寛永十又戊寅辰

寛永二年二月  
十日

長常

始長

二四郎

初名

正保二乙酉六月廿九日  
○系又安元戊子年  
言一月二子  
後分知の寛文  
國節學人西使の

貞白死七年二系日等

長俊 廿九年

子年父初行月百夜分  
知の竟文十席成十二月廿日死子  
の絶

長負 五系九席

長常七男男子世身長負次男は均九系  
烈从子作行元係六系五十一月九日絶  
信の四系入子作行元係九系五十一日絶

長和 三十四席 初百助

美如社丹後守信厚二男  
元禄十年三月廿二日卒  
元禄十一年寅七月十八日家絶  
十二巳卯十一月廿六日出家院番  
保十巳巳六月廿七日死年一系日等

長能 大初等 後前等 初大振

享保十二巳九月二日家絶  
同日巳

萬曆三年十月  
 九月九日  
 八月十八日  
 七月十七日  
 六月十七日  
 五月十七日  
 四月十七日  
 三月十七日  
 二月十七日  
 正月十七日

二月十七日  
 三月十七日  
 四月十七日  
 五月十七日  
 六月十七日  
 七月十七日  
 八月十七日  
 九月十七日  
 十月十七日  
 十一月十七日  
 十二月十七日

長

天  
 地  
 人  
 事

己酉六月廿七日  
 丙子七月廿七日  
 丁丑八月廿七日  
 戊寅九月廿七日  
 己卯十月廿七日  
 庚辰十一月廿七日  
 辛巳十二月廿七日

長

八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月



係姓

今門

志門官所國史十代江部藤原兼光  
嫡男

氏名

刑部藤原

初代五郎

藤原

永祿三年八月八日京師の國奉行  
十九日父前之係親死後後の國奉行  
去月二十日初父由田信吉諸府乳人

胆國府信玄討討成兵治城在右  
州柳川移の因上上年正月六日  
買出條成原信玄の將時上信の  
元每元康十年十二月十七日を門  
漢松と云 所南武備教書後難發  
家園と改名の事と云

所南武備教書後難發  
武備教書後難發  
武備教書後難發

武備教書後難發

武備教書後難發

軌記 武備助

武備教書後難發

武備助

武備教書後難發

武備教書後難發

今川右衛門尉有之稱号有宗子有格  
川藤流之若宗之侯也満心之  
以上是傳之若宗之門之若宗子有  
之傳也物如政之若宗子有之  
同六年卒於市河國能求於内勤  
千石之下在表之若宗之門  
内傳之若宗

能美

之信 和之序  
刑部省

又能美之文也其能美之傳也其祖  
○能美十六年壬午正月初見在傳之  
其能美之子年十二月廿九日其能美  
收其能美下在傳之其能美之傳之同  
十八年八月廿九日  
能美傳之能美之傳之同九年其能美  
七日其能美之傳之同九年其能美  
其能美之傳之同九年其能美  
○同九年其能美之傳之同九年其能美



古六日日光

大藏院縁之同済院志出法之由事は傳  
○同子分亦百番取中使○同子十月  
十番位在左條權本坊○同子十月  
八日日光出法代○同子十月十日取  
中使○同子十月十日日光出法代  
○同子十月十日取法○中使○同子  
去年四月十日日光出法代○同子  
丙午年九月九日取法○同子

御用○同子○四月十日取法中使

○同子二月十日取法○同子七月日光出法代

○同子十月十日取法中使○同子

五月十日日光出法代○同子

業因系傳付○同子

禁院 院中光寺十月十日取法

中使○同子元元五年十月十日取法

京八条市之長延寺發

氏光

大學

實 善台

長山八公傳法長男

陶福





氏睦

刑部大輔 刑部 長官所

丹後守 長官所

氏務

實所 持事 長官所

安宝元五年十一月十日家收の文  
元成元年十一月十日家收の文  
十一月十日家收の文  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見

日見七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見  
同日七年二月七日初見同日見

乾為

刑部

長官所

實所 持事 長官所

元成元年十一月十日家收の文  
元成元年十一月十日家收の文  
元成元年十一月十日家收の文  
元成元年十一月十日家收の文



凡三ノ垂相由胎の  
之由本大門口  
のあり方由得  
如承りて有る  
物を承りて有る  
必承り

天保元年正月廿一日

長周 長之介

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

楊姓

若菜

丹波尾右衛門治久後風捕可目ノ家  
未若菜玉治久後正徳ノ御男

山形 伊原

寛永十二年六月四日  
二五年二月廿七日  
二月廿七日死也福寿寺



西次

伊豆

徳也助

寛文七年七月家老山内守文礼

○同十二年二月家老大友の友○此六年三月

同十二年二月家老大友の友○此六年三月

○同十二年二月家老大友の友○此六年三月

西方

新大友

初徳也助

寛文十一年六月二日家老大友

同八年二月九日家老五十二家口寺

西妻

伊豆

徳也助

寛文九年七月八日家老○半信

○寛文七年九月廿七日家老一氣本家  
福教寺之葬

西飛

伊豆

徳也助

寛文七年十一月二日家老○半人

同四年九月八日福教  
同四年九月八日福教  
同四年九月八日福教

永澤新寛及三年九月晦日死七十五歳口年

正物

百七歳

卯申物

長子新以片山次郎

三或百歳

宝曆十二年十二月廿二日

明和七年七月廿

昭和六年十月十九日

安永六年四月日

源氏

若孫

書物焼失之酒不洋若孫助也  
左妻房助男

房信

信長孫

十三年十月廿二日

房徳

信長孫







*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

源姓  
之後

清和天皇分出新羅之部、之後今後  
同所改姓由田信玄、任信長、源信房、源  
敏之、源房、源友三男

正史  
卷之九

九月十九日、乃中、从甲州、市、於、月、百、後、矣

天保五神保平田村井底六月廿日傳  
 願也判物及氣出則四五去お初氣不  
 酒法<sup>一</sup>亦<sup>一</sup>有<sup>一</sup>一<sup>一</sup>過<sup>一</sup>善<sup>一</sup>甲<sup>一</sup>州<sup>一</sup>新<sup>一</sup>市<sup>一</sup>川  
 總<sup>一</sup>行<sup>一</sup>之<sup>一</sup>不<sup>一</sup>文<sup>一</sup>福<sup>一</sup>三<sup>一</sup>年<sup>一</sup>一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免  
 有<sup>一</sup>江<sup>一</sup>戶<sup>一</sup>大<sup>一</sup>正<sup>一</sup>安<sup>一</sup>初<sup>一</sup>命<sup>一</sup>中<sup>一</sup>一<sup>一</sup>之<sup>一</sup>病<sup>一</sup>死<sup>一</sup>一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免  
田<sup>一</sup>口<sup>一</sup>子<sup>一</sup>之<sup>一</sup>世<sup>一</sup>文<sup>一</sup>お<sup>一</sup>初<sup>一</sup>氣<sup>一</sup>不<sup>一</sup>酒<sup>一</sup>法<sup>一</sup>亦<sup>一</sup>有<sup>一</sup>一<sup>一</sup>過<sup>一</sup>善<sup>一</sup>甲<sup>一</sup>州<sup>一</sup>新<sup>一</sup>市<sup>一</sup>川  
 總<sup>一</sup>行<sup>一</sup>之<sup>一</sup>不<sup>一</sup>文<sup>一</sup>福<sup>一</sup>三<sup>一</sup>年<sup>一</sup>一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免

勝心

全福信文

此代全福信文

又死初<sup>一</sup>信<sup>一</sup>有<sup>一</sup>一<sup>一</sup>後<sup>一</sup>之<sup>一</sup>有<sup>一</sup>免<sup>一</sup>○其<sup>一</sup>後<sup>一</sup>由<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
地方<sup>一</sup>建<sup>一</sup>官<sup>一</sup>の<sup>一</sup>九<sup>一</sup>室<sup>一</sup>永<sup>一</sup>女<sup>一</sup>年<sup>一</sup>四<sup>一</sup>十<sup>一</sup>三<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>

○其<sup>一</sup>後<sup>一</sup>由<sup>一</sup>免<sup>一</sup>一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 初<sup>一</sup>信<sup>一</sup>有<sup>一</sup>一<sup>一</sup>後<sup>一</sup>之<sup>一</sup>有<sup>一</sup>免<sup>一</sup>○其<sup>一</sup>後<sup>一</sup>由<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>

勝行

刑部左衛門

初信有信

万<sup>一</sup>法<sup>一</sup>元<sup>一</sup>一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>○其<sup>一</sup>後<sup>一</sup>由<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>  
 一<sup>一</sup>月<sup>一</sup>廿<sup>一</sup>日<sup>一</sup>免<sup>一</sup>

同日... 二月廿一日... 病死... 罹  
... 十二月... 享保二... 介  
... 病死... 京東... 慈寺

膳房

...

五... 九月... 但... 西... 日...

膳有

...

大... 西... 日... 新... 宇...

膳

...

元... 七月... 大... 同... 宇...

...





美濃守源清盛の男

信成

源

百傳少将

天保三年二月廿三日養子  
天保三年二月廿七日同母  
十二月十二日初見寛政六年二月廿九日  
死同母

美濃守源清盛の男  
音五郎

光朝

寛政六年四月又日家智日八年上  
月廿又日初見

友系姓

稻田

後水尾帝

在彼皇朝

稻田之尾出の村其末織田が仕流也  
其末在尾出村も織田が仕

任殿男

京師市幸町稻田

正徳

在彼皇朝

元和元年六月廿二日  
其末在尾出村も織田が仕

御心づく初見四月廿二日  
其末在尾出村も織田が仕

成年六月廿二日早八歳

其末在尾出村も織田が仕  
其末在尾出村も織田が仕



一書切節 治承元年 急減 治承元年

布通御座依此言より又七桐と云

紋依此言より字を改め

○大和守の二月廿日病免北条信時

京之宮の十月廿九日御座山下御座

友の元禄上宮の八月十七日御座

川戸橋所降福寺

勝政 九年 御座

元禄上宮の二月十八日御座

○同十三年十一月病免

叙集 九年

元禄十三年七月九日御座

未年二月廿七日御座

西宮御座同日の同日に本年

病免日年九月北宮御座

京都 御座

其石御座



享保七年正月七日

享保八年正月九日

同日

享保十二年正月

享保十二年正月  
同日

女信

初安貞

初安貞

享保三年三月

享保九年正月

享保十二年正月

女信

初安貞

初安貞

享保八年正月

享保九年正月

享保八年正月九日  
享保九年正月九日  
享保十年正月九日  
享保十一年正月九日  
享保十二年正月九日  
享保十三年正月九日  
享保十四年正月九日  
享保十五年正月九日  
享保十六年正月九日  
享保十七年正月九日  
享保十八年正月九日  
享保十九年正月九日  
享保二十年正月九日  
享保二十一年正月九日  
享保二十二年正月九日  
享保二十三年正月九日  
享保二十四年正月九日  
享保二十五年正月九日  
享保二十六年正月九日  
享保二十七年正月九日  
享保二十八年正月九日  
享保二十九年正月九日  
享保三十年正月九日  
享保三十一年正月九日  
享保三十二年正月九日  
享保三十三年正月九日  
享保三十四年正月九日  
享保三十五年正月九日  
享保三十六年正月九日  
享保三十七年正月九日  
享保三十八年正月九日  
享保三十九年正月九日  
享保四十年正月九日  
享保四十一年正月九日  
享保四十二年正月九日  
享保四十三年正月九日  
享保四十四年正月九日  
享保四十五年正月九日  
享保四十六年正月九日  
享保四十七年正月九日  
享保四十八年正月九日  
享保四十九年正月九日  
享保五十年正月九日  
享保五十一年正月九日  
享保五十二年正月九日  
享保五十三年正月九日  
享保五十四年正月九日  
享保五十五年正月九日  
享保五十六年正月九日  
享保五十七年正月九日  
享保五十八年正月九日  
享保五十九年正月九日  
享保六十年正月九日  
享保六十一年正月九日  
享保六十二年正月九日  
享保六十三年正月九日  
享保六十四年正月九日  
享保六十五年正月九日  
享保六十六年正月九日  
享保六十七年正月九日  
享保六十八年正月九日  
享保六十九年正月九日  
享保七十年正月九日  
享保七十一年正月九日  
享保七十二年正月九日  
享保七十三年正月九日  
享保七十四年正月九日  
享保七十五年正月九日  
享保七十六年正月九日  
享保七十七年正月九日  
享保七十八年正月九日  
享保七十九年正月九日  
享保八十年正月九日  
享保八十一年正月九日  
享保八十二年正月九日  
享保八十三年正月九日  
享保八十四年正月九日  
享保八十五年正月九日  
享保八十六年正月九日  
享保八十七年正月九日  
享保八十八年正月九日  
享保八十九年正月九日  
享保九十年正月九日  
享保九十一年正月九日  
享保九十二年正月九日  
享保九十三年正月九日  
享保九十四年正月九日  
享保九十五年正月九日  
享保九十六年正月九日  
享保九十七年正月九日  
享保九十八年正月九日  
享保九十九年正月九日  
享保一百年正月九日

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*



源氏  
松平

八幡之所ありて松平の勲ありき  
芳縁

将監

俊正

伊賀守松平俊正  
将監

子正也信之切也  
天正十年六月

尾城小立三右衛門

同年伊豆國藤山  
と云ふ時服部守松平  
承一伊豆守と云ふ天正  
尾城小立三右衛門

敬多ク引見ル所存青八日秋忍入衆  
御振致控多支子 equal 於平内防等校  
聖新十所中級白回月十有秋落月  
王意之信去胎於二天三落不中他非未  
取し 上之ことわぬ公の回中甲辰辰  
と中本殿之款多花はと物造全  
在公一回中備落月一回上申年落  
別格傳三月十六日公回亦上白進羽案下  
信多心より大膳等伊等て去物造又好

御振仕公等もとも同井酒意儀因上  
此分之外数多押分はとも在伊等て去  
多打死仕儀後相談之我儀別注海に  
五陣信の回中お田平所出款  
庄田圖録にの儀  
瀧川信信仕公

控現御中級向地はとも在伊等て去  
竹瀧川と和と押分人飯と味入中  
丹伊侍長人教と二夜進押儀は行等  
多河死仕儀とも在伊 上寛法指三

入國の儀  
年五月  
...

後段より並お働り  
切落候儀  
...

寛永

漢大徳

元々同時  
...

永正卯年  
...

寛永

漢大徳

寛永卯年  
...

...

...

寛文七年  
...

...

寛文

漢大徳

寛文元  
...

...

...

...

△地  
...

宣旨

与清康卿

元文十四年十月八日  
元禄八年七月廿一日

宣旨

与清康卿

元禄八年九月九日  
元文十二年二月七日

元禄九年九月  
元文十二年二月七日

宣旨

元文十二年二月七日

元文十二年二月七日

元文十二年二月七日

宣旨

元文十二年二月七日

元文十二年二月七日

元文十二年二月七日

元文十二年二月七日  
元文十二年二月七日

其乃子孫令之為時後二百一十年、在海南州之北  
當法江戶、是日九年二月、長九子令、我  
天明年十一月十七日、國東布川之書  
後、樹日七年、五月、初、均、得、日、之、令  
二、夜、時、居、二

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

源氏

磯野 初後

片、女、天、皇、女、小、作、本、高、磯、花  
母、後、子、者、長、孫、江、戶、之、後、信、實、也

子

宮中尚才居同御傍

長後子 初後 御八右馬

政時

元保十六年八月元月 元保十六年八月元月









唐書卷之六 卷之六 後漢子 卷之六

卷之六

後漢書卷之六 卷之六 後漢子 卷之六

死 卷之六

之春

永樂二年 卷之六 卷之六 卷之六

卷之六

後漢書卷之六 卷之六 卷之六 卷之六

後漢書卷之六 卷之六 卷之六 卷之六 卷之六 卷之六







皇祖江戶御治十六年

慶長院棟御代武州為曆終古也

御始力有之御方一也御代御下右

御代名 御下 御方 右宗右宗

初

御代名 御下 御方

皇祖

慶長院棟御代武州為曆終古也

元禄九年壬午二月三日壬午  
不度慶一四年二月三日壬午  
十六年二月三日壬午  
六月廿七日壬午

皇祖

皇祖

元禄十六年六月廿七日壬午  
合寶永六年十月廿七日壬午

丁  
 寛延四年二月  
 二月廿四日(西曆五  
 〇六〇)迄之平  
 八月廿四日(西曆五  
 〇六八)迄之平  
 九月廿四日(西曆五  
 〇七六)迄之平  
 十月廿四日(西曆五  
 〇八四)迄之平  
 十一月廿四日(西曆五  
 〇九二)迄之平  
 十二月廿四日(西曆五  
 一〇〇〇)迄之平

開書院。心徳四年十二月廿九日  
 月先院後侍。之後丹波守藤方源朝孫  
 宗重。南書院。出立。中書院。後  
 果書院。以。宗重。平。二年。平。人。百  
 中書院。初。凡。十。也。也。也。

丹波守院

宗重子。一。也。平。人。百。中。書。院。後。侍。

宗重

宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。  
 宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。  
 宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。

宗重

宗重

宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。  
 宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。  
 宗重。平。人。百。中。書。院。後。侍。

Faint, illegible handwritten text on the left page of an open book.

Faint, illegible handwritten text on the right page of an open book.





